

職員からの事業所自己評価の集計結果（公表）

公表：令和4年3月

事業所名：仙台市サンホーム

職員回答数 14名 回答数14枚 回収率 100%

必修項目	○	チェック項目	はい	いいえ	未記入	工夫している点 (現状および課題や改善すべき点含む)	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7 (50%)	7 (50%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に応じてパーティションや机の配置を変えたり出し入れして工夫をしている。 ・保育室は保護者、スタッフも過ごすとなると狭い。 ・パーティションで仕切り、出す玩具を工夫して静と動のスペースを分ける等、動線の工夫をしている。 ・運動発達がゆっくりなタイプのクラスは、5名程が適切だと感じる。 ・国の基準では適切であっても、実際は子どもと保護者、職員が入るととても狭く、パーティション等を利用して安心安全に過ごせるよう工夫している。 ・スタッフ数を必要最低限で対応している。 ・保護者も一緒に過ごすとなるとスペースが狭く圧迫感がある。テラススペースを活用している。 ・日々様々な工夫を凝らしているが、コロナ禍での間隔を開けた食卓の設定、特性を踏まえた個別療育を行うことを前提にしたスペースにはなっていないため、クラス人数の調整によりスペースを確保する必要がある。受け入れ定員との兼ね合いもあり、苦慮している。また、動きの大きな児童もおり衝突回避など安全面の配慮に神経を使って療育している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年身体的なケアを要する児童も増加している。児童の状態や安全を考慮したクラス編成、人員体制を検討しているが、多様な状態の児童が同一クラス内で生活していくことに伴い、スペースの使い方や活動のプログラムを調整している。医療ケアやそれに準じるケアを要する児童のクラスにおいては、安全面を考慮した児童数とスタッフ人員の編成が必要になる。
	②	職員の配置数は適切である	8 (57%)	5 (30%)	1 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・1クラス（定員10名）に職員3名では少ないと感じる。状況に合わせてフリースタッフに入ってもらっている。 ・配置数は適切だが、医ケア児や未歩行の児がいるクラスは特にスタッフの数が必要な場面がある。 ・できれば1クラス（児童10人につき）4人の職員配置がほしい。 ・子どもの出席人数に合わせて調整している。 ・子どもと保護者の方と、どちらも支援を必要としているという視点で考えると、職員の配置数は全く適切ではない。 ・国の基準に添って行っているものの、自立歩行がまだ難しかったり、個別配慮が必要な児へスタッフがつかざるを得ない場合もあり、職員の配置数は見直していけるとよいと思う。 ・上述したスペースとの兼ね合いがあるが、衝突回避のために個別対応を要する場合も多い一方、スタッフを増やすことによりコロナ禍での密接の回避や人員体制の不足を実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のようにスタッフ個々に工夫を凝らして実践している。 ・医ケア児や未歩行の児がいるクラスは特にスタッフ数の確保が必要になるため、これからフリー職員の配置調整などを実施していく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りのパーティションや机を出し入れするなど環境の構造化に努めているが、人数に対して部屋が狭く限界がある。2階の保育室の状況は、スタッフルームと距離があり情報共有しにくい。 ・全てがバリアフリー化されているわけではないが、サッジ等段差を越える際には注意喚起している。 ・ユニバーサルデザインを意識し、誰にでも分かりやすい環境に努めている。更に個別の特性に合わせて構造化をしている。 ・構造化するには部屋が狭く、使い勝手が悪い。物の配置や玩具の出し方等で出来る限り環境を整えている。 ・スケジュールや足型等で見える化している。 ・パーティションの設置をしている。 ・1,2と連動するが、1階保育室の段差解消工事は済ませ見かけ上は整備されたものの、倉庫が少ないため日中は廊下などに玩具等を仮置きせざるを得ない。消防法上の避難通路の確保や物に躓くなどの事故の予防に日々配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記のようにスタッフ個々に工夫を凝らして実践している。 ・物理的な環境に関しては改善が難しいので、特性に配慮し、パーティションの作成や玩具の整理や出し方など今後もスタッフのチームワークでカバーしていくようにする。 ・コロナ禍での食事については感染予防対策として、母子ごとのテーブルセッティングや、感染予防パーティションを活用している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、清掃と消毒を丁寧に実施している。 ・コロナ禍になり、玩具や室内の消毒を毎日行っている。 ・掃除、消毒は勿論、遊びに合わせて環境を整えている。 ・掃除、玩具の消毒は毎日行っている。 ・今後、床張替工事を実施し、冬も過ごしやすくなる予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭いながらも子どもの特性に応じたパーティションの活用や個別スペースの確保など安心して活動できる構造化を工夫している。 ・療育前後で清掃を行い、特に感染症の予防のために温度管理や加湿、定期的な換気に対応している。特に新型コロナウイルス対策においては使用用具や玩具の消毒をこまめに実施した。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4 (29%)	0 (0%)	10 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度話し合いをしている。 ・不具合や解決が必要な事項が発生した場合は定例会議や午後の臨時会議で話題に取り上げて早期に対応している。特に設備面の不具合は安全面が優先されるので可能な範囲で即座の改善を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1～3回の職員会議、月1回の療育会議を実施し、療育内容や業務についての問題を提起し、改善案を出し合っている。新型コロナウイルス対策においても職員全員で最善の方法を検討し、周知・実践している。 ・指定管理運営第3期に入り、更なる療育の質向上に向け、卒園児にアンケート調査を実施し始めている。

業務改善	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から保護者のニーズや評価を聞き取り、改善に努めている。一方、仙台市へ保護者が提出したアンケートの集計が遅かった。(昨年分が今年度1月に来た) ・毎年アンケートを実施している。 ・アンケートや実際の声をもとにスタッフ間で話し合い対応している。 ・床の底冷え改善などの要望が多かったため、仙台市に改修費を要望して工事をしてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育での改善点の抽出、設備関係の点検などについても、会議内で共有して、改善の方向性を確認していくようにしている。
	7	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年法人ホームページにて公表している。 ・仙台市へ提出した評価表の集計をもっと早く事業所に送って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表結果をもとに職員と協議して改善案を作成し、3月に公表している。仙台市のアンケート結果をもとに全員で改善案をスタッフ議して保護者の目に届きやすい壁に掲示している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3 (21%)	0 (0%)	11 (79%)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度法人の評議員会を開催し、各事業の評価をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の監査や法人の総会などで事業の評価(業務改善も含む)についても報告書等を提示している。 ・評議員会において、活動の概要と課題を提示している。
	9	職員の資質の向上を行うために研修の機会を確保している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部だけではなく内部研修も行っている。 ・今年度は防犯対策の研修等、例年行ってこなかった研修も実施した。 ・具体的な療育に関する研修は内部研修として、事例についてはケースカンファレンスも実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育スキルの向上を求められるため、常勤・非常勤問わずに内部研修・外部研修の機会を設定している。 ・外部研修参加者は必ず会議等で伝達講習するようにし、職員間で共有できるようにしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からリモート研修を受ける機会が多かった。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育で子ども、保護者のアセスメントを行い、保護者にも分かりやすい言葉を選んで支援計画を作成している。 ・行動特性のアセスメントや関わり方が難しい場合は、個別療育を経てケースカンファレンスを実施し、職員全体で療育の工夫やアイデアを出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員個々の経験年数も異なり、多職種がチームを組んで実施しているため、日々の療育の振り返りを実施している。また、療育会議は、他クラスの職員からの客観的な意見も確認できる機会になっている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4 (29%)	0 (0%)	10 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・特性シート、自立課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたアセスメントツールは使用していないが、特性を把握するシート等を活用し、アセスメントに活かしている。今後は情報が整理しやすく、記録を簡素化できるシートを検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には「児童発達支援者(トータル)の「発達支援(個人支援)」「(他支援)」「「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもに必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13 (93%)	0 (0%)	1 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・その子の特性、発達段階に合わせた課題、ステップアップの目標を考慮、過ごし方、環境、関わり方を具体的に記入している。 ・できるだけ具体的な支援内容になるようにクラスで検討し、作成している。 ・抽象的な表現は使わないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの現状把握や進路先での課題を踏まえて具体的な支援内容を組み立てている。支援内容のフォームは、毎年見直しによりわかりやすく効率的な記載様式を工夫するように努めている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と計画を共有して、その一貫として支援を行っている。 ・その日にやってみようと思っている取り組みについては、保護者にも伝えた上で実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に「家族からみた子どものようす」を記載してもらい、家庭での様子や保護者の思い・意向を盛り込んで具体的な計画を作成して支援を実施している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4 (29%)	0 (0%)	10 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に活動プログラムをクラス担当者間で検討して作成し、人員変更・調整については朝のミーティングにて確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容については、計画に基づきクラス担当を中心に主任(児発管)なども加わり客観的な視点を盛り込み、チームで取り組んでいる。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ活動でも変化を加えている。 ・毎回一人ひとりの子どもたちが楽しく参加できるようにクラスで工夫している。 ・発達の様子や経験値等に合わせた秋頃～新たな遊びや活動を取り入れた。 ・活動プログラム内容とその意味についてはクラス懇談会などで伝達している。 ・子どもの発達によっては繰り返して同じ内容を丁寧に取り組むこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の課題と遊びのねらいを意識した上で、活動プログラムを作成している。遊びの広がりや成長を大切にすると、同じ遊びの定着をねらう、成長を確認してステップアップさせる等、成長過程に応じたプログラム内容を保護者と共有して進めている。内容の工夫については研修などの学習機会を増やしていきたい。 ・発達過程においては繰り返しのプログラムが必要になることもあり、その必要性については随時保護者に伝達しながら進めている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせながら児童発達支援計画を作成している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を大切にしながらも、その中で一人ひとりの姿を分析して検討し、作成・実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前から個人の特性に応じた個別療育も実施している。今後は特性と課題に配慮した個別活動を集団活動の中に汎用化していくよう試みていきたい。 ・サンホームの小集団活動ならではの個別の取り組みを集団の中で実践・定着させる試みができる。そのメリットを効果的に実施できるようにしたい。
	17	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい役割分担を決めている。 ・送迎等で出かける為、全員での打ち合わせが困難なこともあった為、前日中に打ち合わせをしておくこともあった。 ・朝、チーム毎に入念に打ち合わせをしている。 ・安全面の確保のためにも職員の動き方、役割分担を明確化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のミーティングではクラスごとの全体の流れと人員体制、使用遊具などの確認と調整を実施している。また、子どもが登園する前の20～30分間、クラス内で打ち合わせを実施し、当日の段取りや役割を再確認している。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	12 (86%)	0 (0%)	2 (14%)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務が増える時期からは、振り返りが出来ない日が多かった。記録を書きながら話し合う等していた。 ・子どもの様子、保護者の様子は毎回スタッフ間で共有している。 ・忙しい時期は、細かい振り返りができないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが降園後にクラス担任全員で療育内の状態についての振り返りを実施している。活動全体の課題や子どもの行動面の変化、気持ちの汲み取りを共有し、次の活動計画に生かしている。 	

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14 (100%)	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・特に重要な点はマーカーペンで印を付けて分かりやすくしている。 ・記録に残していることを見逃さないよう見返している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りと記録を通して、子どもの成長の把握（モニタリング）を行い、支援の効果や修正等、支援内容の検討を行っている。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス会議で振り返る。 ・日々の振り返りに加え、職員全体での月1回の療育会議を実施している。 ・個別療育やケースカンファレンスの実践を通してステップアップした計画内容を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングは日々の振り返りのみならず、療育会議や内部研修（ケースカンファレンス）を通して実施している。 ・職員全員で課題を共有し、さらに成人支援の視点からの助言も生かして活動内容の質の向上をめざしている。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はサービス担当者会議がなかった。3月に実施予定。 ・担当者会議の出席については、子どものクラス担任や地域支援担当者など子どもの状態に精通し、これからもフォローしていく担当者を当てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状態像と支援の方向性に精通する職員として、クラス担任、主任、地域相談員などが参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・区担当保健師とは、地域支援業務を通して連携を図る機会を定期的に設けていきたい。 ・お母さんを通して、情報を共有する機会はあるが、直接顔を合わせて支援内容をすり合わせる等はない。しかし、これはサンホーム側だけの努力では難しいことと考えている。こちらから、積極的に情報共有するようには努めていきたい。 ・母親たちの世代の抱える課題も大きく、子育て支援においては母子保健との連動性が課題である。アプローチしても共通認識をもつことが難しかったり、課題についてのとらえ方の温度差を感じる。日常場面で相互の関わりを持ち、連携を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アーチルや家庭健康課等と連携し、個別ケースのフォローアップを実施したり、地域相談員が保育所の相談支援やのびすく活動に参画したりしている。今後はアーチル等と有機的な関係性（パートナーシップ）をめざし、日頃から情報交換を密に展開していく予定である。
	23	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんを通して、情報を共有する機会はあるが、直接顔を合わせて支援内容をすり合わせる等はない。しかし、これはサンホーム側だけの努力では難しいことと考えている。こちらから、積極的に情報共有するようには努めていきたい。 ・出来る限り連携した。一方、医療機関等から情報共有や連絡を断られるケースもあり、連携の難しさも感じた。 ・保護者からの聞き取りや、必要時発作時の対応等を書類に記入して頂いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的を受診している児童については、その都度受診結果を共有している。医療機関などは、さらに連携を深めたいと考えているが医療機関側からネガティブな反応に対して、今後は病院側のソーシャルワーカーとの連携を密に展開していきたい。
	24	（医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている	12 (86%)	1 (7%)	1 (7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る限り連携していった。一方、医療機関等から情報共有や連絡を断られるケースもあり、連携の難しさも感じた。 	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎや卒業フォローを行っている。 ・引継ぎや卒業フォロー等で定期的に行っているとと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の保育所（園）や幼稚園に支援内容や情報の引継ぎを実施している。進路先での適応状態の確認については3ヶ月目に電話フォローを行い、必要時保育所等訪問を実施している。卒園児フォローアップも定着し、施設との相互信頼関係も構築できたことからさらに支援を深めていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10 (71%)	4 (29%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・サンホームに就学前まで在籍していた場合、サンホームから直接小学校に入るお子さんは今のところ実績がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校特別支援教育の教員と連携し、卒園児や地域の保護者を対象に就学における講演会を実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため実施しなかった。今後は幼稚園や保育所とリモート研修も検討していきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・市連協や県連協の中で他の児童発達支援センターとの情報共有や仙台区の療育に関する課題共有と解決案などを検討している。 ・市連協の会議・研修への参加、ワーキンググループでの意見交換、他療育施設の見学等積極的に交流をもっている。 ・アーチルと連携が難しい場面が多く、話し合いの場を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市内の児童発達支援センターや県内の療育機関と日頃から研修や情報交換の機会を設けている。困難な事例についてはアーチルなど専門機関と連携を図っている。 ・効果的、効率的な連携の為に、情報共有を密にし、施設での支援の限界も開示しあい役割分担を実施していくことが望まれる、その共通認識をもつための会議をこれからも開催していきたい。
	28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	0 (0%)	4 (29%)	10 (71%)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの為ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度以降、新型コロナウイルス感染予防のため実施できなかった。今後は近隣の保育所との交流保育や行事を通して活動の場の共有を検討していきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	1 (7%)	3 (21%)	10 (71%)		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域相談員を通して地域の子育て会議などに参加していきたい。コロナ禍で子育てイベントも中止に追い込まれているがその弊害も視野に入れ、それを補完する子育てサポートも検討しなければならない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の中でその都度保護者への共通理解を図り、定期的な面談も設定している。 ・遊びへの参加の仕方や参加した姿を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回プログラム説明時、年2〜3回のクラス懇談、父親等家族参観・懇談のほか、随時個別面談を設けている。毎日の療育においても振り返りを実施し、成長の確認、課題の共有、認識のずれの解消などを心がけている。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6 (43%)	0 (0%)	8 (57%)	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の中で保護者支援のウェイトが年々増している。 ・ペアレントプログラムの趣旨をもとに簡便化した内容で勉強会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もペアレントプログラム研修を受講した職員による「自己肯定感を育む」という内容で保護者勉強会（ワーク）を実施した。今後はシリーズで実施していけるよう計画していきたい。 	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前オリエンテーションで園長が行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前の見学時の説明やオリエンテーションなどに対象者の理解に合わせた説明を心がけていきたい。 	

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の8つ及びその支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談で、丁寧に説明し同意を得ている。 具体的な取り組みを説明した上でサインをもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も保護者の理解の仕方を考慮し、わかりやすく丁寧に説明を心がけていきたい。保護者の受け止め方が不十分、あるいは認識のずれが生じた場合は繰り返し、誠意をもって説明をしていきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> すぐに答えられないことは、クラスで共有してから答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育ての悩みについては、クラス担任が中心となり相談を受けているが、場合によっては主任や副主任、園長、地域相談員が担当し助言している。日頃より保護者の不安な表情や困っている状況を早めに察知し、傾聴できるよう心がけている。
	35	父母の会を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2 (14%)	0 (0%)	12 (86%)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で親の会の開催は中止しているが、日々の保護者交流タイム（ブレイクタイム）の中で保護者同士がスムーズに連携できるよう配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から保護者会は中止とした。療育内での保護者交流タイムや保護者勉強会を通して、保護者同士の連携つくりを支援している。障害の捉え方や子どもの成長の共有など、保護者同士が互いに気づき合えるよう心がけている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 時間を空けないうちに話を聞くようにしている。 令和3年度からは、保護者からの相談内容によっては公認心理師の専門的視点を導入した相談機会を設けている。 時間やスタッフ体制を見ながら対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情申し立て・解決の体制については、オリエンテーションで丁寧に説明しているが、日々の療育では保護者の認識とのずれを最小限にできるようクラス担任のほか主任・副主任、園長も加わり対応している。 さらに令和3年度より公認心理師を採用し、療育を取り巻く家族関係の調整や保護者の前向きな子育てを支援している。
	37	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6 (43%)	0 (0%)	8 (57%)	<ul style="list-style-type: none"> サンホームだよりや保健だより、法人からの会報やコロナ通信を発行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 月ごとの会報や保健だより、法人の広報誌のほか、子育てや特性理解に役立つ参考本なども積極的に紹介している。 令和3年度から卒園児保護者が作成した、4コマ漫画をお便りに掲載している。日常の子どもの様子を肯定的に受け止められるような楽しいツールを検討していきたい。
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 外部への情報漏洩がないよう日々注意している。 地震発生時や新型コロナウイルス感染による休園の可能性などの一斉送信時の個人情報保護についての注意を職員に周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園時に個別情報の取り扱いの承諾書を交わしているが、日々の療育においてもその都度写真撮影やSNS使用についての注意など繰り返し説明している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 本人にとって分かりやすい手段で伝えている。 コミュニケーション面については、最も心を砕いて子どもも保護者の方にも信頼してもらえるように努めている。 言葉だけではなく気持ちを汲み取れるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との情報共有や子どもの成長の確認などについては、療育内活動時、クラス懇談、個別面談等に丁寧に説明を心がけている。保護者の受け止め方を確認して小さな誤解やずれを早期に解消できるよう努めていきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	11 (79%)	3 (21%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため、行事等は最小限にとどめた。 保護者勉強会には地域の保護者を誘ったり、地域研修に地域の支援者を誘うなどしている。 地域の方や保育関係者、療育関係者の見学などは積極的に受け入れている。 コロナの高接待する機会は控えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から地域の施設支援者を招く研修も最小限の参加者とした。感染予防しながらの行事運営について、職員間で十分検討し、前向きに対応していきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練を実施している	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災に伴う避難経路はオリエンテーション時に説明し、周知している。 職員の内部研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者参加の避難訓練やノロウイルス感染を想定した対応訓練、職員の救急蘇生・AED使用訓練などを毎年実施している。今年度はアレルギーの研修会も実施し、職員全員に対応を周知した。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 春に地震の頻度が多かったこともあり、地震時の防災グッズの点検、防災スリッパや発電機等の追加購入を行い備えた。 今年度は総合防災訓練のほか不審者対応訓練も実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地震や大雨による休園時には個々に電話連絡を実施していたがタイムラグが発生するのでメールによる連絡体制の確立に取り組んだ。令和3年度実施した不審者対応訓練における「さすまたの使用法や護身術」等の具体的な訓練は毎年継続していきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 健診時に、予防接種の状況を確認していきたい。 クラスの子以外は把握が難しかったが、アレルギー対応については全体で周知し、対応可能にした。 	<ul style="list-style-type: none"> 入園児に健康管理シートにより健康状態やかかりつけ受診機関、予防接種状況、服薬状況等の確認を実施し、園内、詳細はクラス内に共有している。また、てんかん発作時の対応やけがの適切な対処については、内部研修を毎年定例化して実施している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされている	6 (43%)	0 (0%)	8 (57%)	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応児についてはマニュアルを作成し、職員に周知し、看護師が中心になり、医師指示書をもらうようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はアレルギーの専門医からの研修を受講し、職員全体の意識や知識の向上に努めた。また、アレルギーマニュアルの作成、個別シートの作成に取り組み、運用している。
	45	ヒアリング事例集を作成して事業所内で共有している	6 (43%)	0 (0%)	8 (57%)	<ul style="list-style-type: none"> 安全な保育についての認識強化のために、年1回事故予防自己チェック表を記載している。 ヒアリングについては職員会議で周知し、改善点を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内外に潜む危険場所のチェックなどリスクマネジメントの手法を通して内部研修している。今後さらに深めた研修内容にしていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	<ul style="list-style-type: none"> 法人にて、虐待防止委員会を立ち上げた。令和4年度～研修等取り入れる予定。 法人本部主催の会合で周知の場を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待予防の研修の強化のほか、誤解を受けたくない行動についても職員全体で共有していきたい。 令和3年度に作成した虐待防止等マニュアルや指針、クレド（信条・心得）については職員に周知し、意識化していく予定である。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5 (36%)	0 (0%)	9 (64%)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の通り、委員会での見直しと職員への周知が行われる予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待予防や身体拘束についてのマニュアル説明については今年度の集会にて周知している。職員全体が再認識できるよう努めたい。